

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	国際学部
大項目	11 教員・教員組織
中項目	
小項目	11.0.1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
要素	教員に求める能力・資質等の明確化 教員構成の明確化 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2010年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価			
		2010	2011	2012	2013
1. 毎年度、自己評価委員会を設置し、教育研究上の自己点検・評価について審議する。	→ 1. 指標 : 自己評価委員会における審議(教育研究上の自己点検・評価について)回数 評価基準 : 4回実施した…評価A、3回…評価B、2回…評価C、1回以下…評価D		A		
2. FD委員会を設置し、授業形態・方法の点検と改善等、教員の資質の維持向上について審議する。	→ 2. 指標 : FD委員会における審議(教員の資質の維持向上について)回数 評価基準 : 4回実施した…評価A、3回…評価B、2回…評価C、1回以下…評価D		B		
3. 毎年度、教授研究会を4回以上開催し、各自が自分の研究テーマを簡潔に発表し、質疑応答する。	→ 3. 指標 : 教授研究会の開催回数 評価基準 : 4回以上実施した…評価A、3回…評価B、2回…評価C、1回以下…評価D		A		
			☆		
2011年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2010	2011	2012	2013
	→				
	→				

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	自己評価委員会を4回実施した。
目標2	FD委員会を3回実施した。
★目標3	教授研究会を5回実施した。
備考	

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【国際学部】		単位	2008	2009	2010	2011	2012	備考	
指標1	専任教員1人あたりの学生数 (ST比)	人			10.1	19.0	22.7	学部	
指標2	必修科目および選択必修科目に対する専任比率	専門教育	%			89.1	82.1	81.8	学部、センター、研究所
		教養教育	%			30.0	24.3	18.5	
指標3	教員組織における女性教員の比率	%			23.1	21.4	21.4	学部、センター、研究所	
指標4	本学出身の専任教員の構成比率	%			17.9	12.5	17.9	学部、センター、研究所	
指標5	専任教員の担当授業時間(平均)	教授	時間			11.6	11.2	12.1	45分をもって1時間に換算
		准教授	時間			8.0	8.2	8.6	
		講師	時間			18.2	17.0	17.0	
		助教	時間			—	—		